

令和7年11月21日(金)

NO.25

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

あさひの日だまり

～マラソン大会が行われました～

ボランティアや応援ありがとうございました



ボランティアの皆さんとの打ち合わせ
した。

びっくりするくらい早いスピードでトップグループの子どもたちは走ってきます。その後に続いてそれぞれのペースで次々に子どもたちは走り抜けていきました。最後の方の子どもも一生懸命に手を振って足を進めて駆け抜けていきます。時々歩いて進んでいく子もしばらくするとまた走り出します。

グランドで待っている子どもたちはゴールへ向かう子どもたちに盛んに声援を送りました。順位が大きくなるに従い送られる声援は大きくなりました。最期の子どもがグランドにあらわれると同級生が駆け寄り伴奏し一緒にゴールする姿も見られました。

応援されていた方が「うちの家族がボランティアで道路に立っていたのですが、子どもたちの姿を見ていたらこみあげるものがあったと言いましたよ」と声をかけて下さいました。「本当にそうです。私も子どもたちの姿を見ていたら何度もこみ上げてくるものがありました」とお答えしました。子どもたちからいた感動は順位とかそういうものとは無縁の感動です。速さの優劣にも関わりがありません。それは、その子の走り姿であったり表情であったりするところから感じるものです。そして周囲で無心になって応援する子どもたちから感じるものでもありました。



19日の水曜日にマラソン大会が行われました。子どもたちはそれぞれの思いを胸にスタートラインに立ちました。周囲にはたくさん仲間たちが応援しています。ご家族もたくさん駆けつけて下さっています。私は号砲をならすために子どもたちの前に立っていました。「校長先生、あとどのくらい?」とみんなが聞いてきます。「あと2分だよ」と答えると「うわー」と声援が上がります。「あと10秒だよ」と声をかけると、自分たちでカウントダウンを始めます。カウントダウンが0になるのに合わせて号砲を打ちました。子どもたちはそれぞれの学年ごとに設定されたコースへ向かって走り出していくま

スタートを待つ子どもたち



マラソンを通して子どもたちはいろいろなことを思い経験しました。その経験が子どもたちの中に新しい感覚を育ててくれたに違いありません。ご来校いただいたご家族の皆様、お手伝いいただいたボランティアの皆様本当にありがとうございました心より感謝申し上げます。

最終ランナーと一緒に同級生が伴走してゴール

～インフルエンザが流行っています。～

お大事にして下さい

このところ近隣の学校でインフルエンザによる学級閉鎖が話題になっていました。本校はここまで少しづつ発症の

連絡はいただいていましたが流行という感じではありませんでした。

そして、ここへ来て一気に流行期に入ったという感じです。職員室の電話が鳴り続け教頭先生が保護者の方からの感染連絡を受けてくれています。現在金曜日の昼ですが20名ほどの子どもたちの感染が確認されています。3年生は一クラスを学級閉鎖にしました。5年生は金曜日を早退としました。他にもいくつかのクラスで欠席が目立ちます。明日から3連休となりますので体調のよくないお子さんは通院にて診察を受けていただけたら幸いです。インフルエンザの場合お薬を頂けば症状が軽くて済むように思います。

感染されたお子さんの回復を心より願っております。どうぞ大事にして下さい。

また、連休中も継続してオクレンジャによる健康観察をお願いいたします。子どもたちの状況を見ながら週明けの登校判断をいたします。ご協力お願いいたします。

～校長講話がありました～

一輪車に挑戦しました

木曜日に校長講話がありました。前日のマラソン大会のことについてお話ししようかと思いました。ただ、子どもたちのマラソンに対する思いは一人ひとりみんな違うはずです。どんな言葉なら子供たちが受け入れてくれるか迷いました。迷いながら結局行きつく先は「挑戦」でした。そして下のようなお話をしました。よろしければ目を通してみてください。

今日の朝先生のところに葉っぱの雨が降っていたんだよと言って葉っぱを持っててくれた人がいました。グランドの端の大木の葉がたくさん待っていたのを見た人もいますよね。それを葉っぱの雨って表現してくれたんですね。素敵な感性ですね。そうやって四季の移ろいを肌で感じながら皆さんも自然と一緒に成長しているんだなと思います。

昨日はマラソン大会でした。マラソン大会が楽しみだった人もいるでしょう。不安だった人もいるでしょう。去年の順位に挑戦してみようと思っていた人もいるでしょう。去年のタイムに挑戦しようと思っていた人もいるでしょう。それぞれの思いを胸にスタートを切りました。競技には結果は必ずついてきます。順位もタイムもついてきます。悔しかったり、残念だったり、嬉しかったり、来年こそはという決意だったり、いろいろなことを思いますよね。色々な思いがあって当然です。みんなちがった気持ちになって当然です。校長先生がここで頑張った自分を褒めてあげて下さい。と言ったとしても「自分はあまり頑張れなかったな」と思っている人はなかなか自分を褒めようという気持ちにはなれないかもしれません。

校長先生は思うんです。頑張ろうと思ってスタートしたけど走り出したら頑張れない気持ちが湧いてきた人もいますよね。それも自然なことです。先生もそういうことが何度もありました。でもそういう人も含めて全員の人がスタートの前には精一杯頑張ろうと思ったと思うんです。そして、先生は思うんです「頑張ろう」と決心したその時の自分の心がとても尊いのです。だから、精一杯頑張ろうと思った自分を褒めてあげて欲しいと思います。そして次の挑戦の機会にまた「頑張ろう」という気持ちを奮い起こしてください。期待しています。

校長先生はなんどもなんども失敗してそのたびに「もう無理!」「絶対無理!」と思っていたことがあります。それは何でしょう?

そうです一輪車ですね。先生の一輪車への挑戦は今までの中で段違いに難しい挑戦でした。60歳のこの体では一生一輪車に乗れないかもと何度も思いました。

毎日練習しなきや乗れないと思っていたけど正直に言うと弱気になってしまって何度も投げ出しました。正直に言うとこの頃もさぼってしまいました。意志の弱い校長先生です。

自分の心の中に「どうせダメさ」という気持ちがわ湧いてくるんですよ。その気持ちちは自分ではどうしようもないんです。皆さんの中にマラソンを走っている最中にもこういう気持ちわいてきた人いませんか。

それでも、これじゃあいけないと思い直して少しずつでも練習をしてきました。今日はその成果を見て下さい。お願いします。

【体育館の横半分くらいを乗れました。フラフラしながら乗りました。子どもたちが「ガンバレー」と大きな声援を送ってくれました。緊張が最高潮になりました。もう少し頑張りたいと思って何度も挑戦しました。子どもたちはずっと応援してくれました。最後に体育館の横幅の半分を乗れました。応援してくれた子どもたちに本当に感謝です。終業式を目指してもう一度頑張ります。】